

# 「さばにぎり」

## 要旨

福井県鯖江市河和田の伝統薬味である「山うに」の知名度を上げるために、山うにアレンジおにぎりを考案し、そのアレンジレシピを広める。その方法が「山うに」の知名度を上げるのに有効な方法であるかを知るために、つつじまつりでアレンジおにぎりの提供、アンケートの実施を行った。アンケートの「山うにアレンジおにぎりを食べたことを通して、山うにを買ってみたいと思ったか」という項目で、約90%の方が「はい」と答えてくれたため、その方法は有効であると考えた。そのため、アレンジおにぎりを通して「山うに」を広め、鯖江市をPRすることができた。

## 1 はじめに

鯖江は全国的にもメガネの印象が強い。そこで鯖江の新たな魅力を発信したいと思い、鯖江の特産品に着目した。数ある特産品の中で、名称のインパクトの強さからPRに最適だと考え、山うにを使うことにした。山うに×おにぎりにした理由は、おにぎり専門店の増加、海外でおにぎりの需要の高まり記事、おにぎりは手軽に作れるというこれらの理由からPRに最適だと考え、このテーマを設定した。

## 2 研究方法

### 1.おにぎり作成

やまうにに合いそうな具材をメンバーで持ち寄って食べ比べし、へしこ、エビマヨ、クリームチーズの三種類のおにぎりを考案した。

### 2.つつじ祭りにておにぎりの配布

当日は朝9時に集合し、色々準備をして11時頃からおにぎり作りをはじめた。おにぎり作りは米を炊くところから材料をいれて握るところまで全部自分たちで行った。約3時間かけて3種類1セットの合計200セットのおにぎりを完成させた。13時半頃からおにぎりを本格的に配り始めた。配布、呼びかけ、ラジオ出演など様々な活動を行った。たくさんの人と関わりながら、全員で協力して無事に200セット配った。

### 3.アンケートと投票の集計

つつじまつりで、美味しかったおにぎりにシールで投票してもらい集計をとった。またおにぎりをもらってくれた人にアンケート用紙を配布して様々なアンケートをとった。

### 4.考察

アンケートの結果を下に考察し、課題を考える。

## 3 研究結果

おにぎりと一緒に配布したアンケートには5つの項目があり、丸をつけるだけの簡単なアンケートにした。このアンケートには154人の方が回答してくださった。

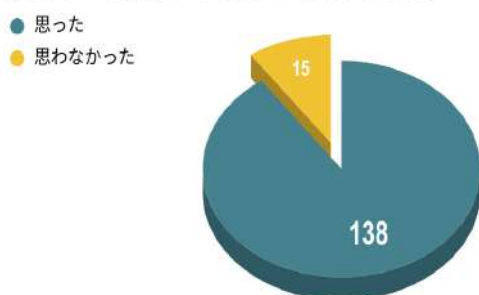
#### 福井と県外での知名度



食べに来てくださった人は福井県内の人が7割、福井県外の人が3割だった。そのうち県外の人約70%が山うにを知らないと答えた。また、年齢別にグラフを出すと、～10代と40～50代に山うにを食べたことがないと答えた人が特に多く、全体では約45%の人が食べたことがないと答えた。

私達のおにぎりを食べて山うにを買ってみたいと思ったかの項目では、約90%の人が買ってみたいと答え、山うにのPRが成功したように感じた。

#### 山うにを買ってみたいと思ったか



アンケートに書かれた感想では山うにをまた食べてみたい、山うにが食べやすくなっていた、それぞれの食材がしっかり合っていた、意外な美味しさを発見できた、などたくさんの嬉しい声があった。またアドバイスもあり、山うにの展示があったら良かった、へしこの切り身が入っているといいなどの意見もありとても参考になった。

## 4 考察

山うにおにぎりを食べてくださった方々の90%が山うにを買ってみたいと回答してくださった。わたしたちが考えたおにぎりを通して「山うに」を紹介することで、「山うに」の購買意欲がUPし、山うにを通して鯖江の知名度が上がったと考えられる。10代に食べたことがないという人が多かった。若い世代はあまり山うにに馴染みがなく知る機会もないためだと感じた。

## 5 今後の課題

もっと様々な方法で山うにを広めていきたい。そのために、地元のおにぎり屋さんとはコラボして山うにおにぎりを商品化し、イベントに参加して出店し販売する。またおにぎり系のコンテストに参加する。このような活動をすることで、福井県内だけでなく県外にも山うにを広めもっと身近な食材にしていきたい。

## 6 参考文献

[山うに - めがねのまちさばえ 鯖江市](http://city.sabae.fukui.jp)

[city.sabae.fukui.jp](http://city.sabae.fukui.jp)

<https://www.city.sabae.fukui.jp/oishii/oishi-yamauni>